

友だちって必要ですか？

1

いないと虚無になるので必要。

在学生／デザイン学部

2

めんどくさい友達より合いそうな人を見つけるほうがいいと思います！楽し！私は大学で友達がいませんがぼっちとしての人の目も気にならないし、授業は楽しいし最高ですよ。

在学生／マンガ学部

3

なぜ『ぼっち』が辛いかというと共感する人がいないからだとは私は考えています。そのためなにか同じ物(たとえば制作、プロジェクト、サークルや部活)に熱中できる『戦友』や『仲間』は必要だと思います。

逆をいえば熱中できる物のない上辺な関係や気を使う友達ならいらないと思います。

友人がいないこと、つまりぼっちは寂しいことです。しかし何かに熱中できてさえいればぼっちかどうか考える暇はなくなり、日々は充実し、心の有りどころを見つけられるはずです。

在学生／芸術学部

4

友達が必要かどうかは正直個人差があると思います。また、年齢が近い人だけが友達ではないと思います。

例えば、京都精華大学は先生と生徒の距離が近いし、先生の部屋に遊びに行ける時間があります。先生は面白い人ばかりで好奇心旺盛なので、あなたの本音も「面白いね」と笑って聞いてくれると思います。私がそうです。同年代の友達の他に、本音で話せる「大人の友達」を作ることには挑戦するのも楽しいかもですよ

在学生／人文学部

5

いつも一緒にいる友だちがいる。それが既に大切な友だちなのです。本音が言いあえる友だちはあえて必要ないです。一緒にいることで、いろいろな悩みが流れていったりするものです。本音や本当の悩みが打ち明けられる友だちが必要だと言う圧力に惑わされないようにしましょう！

教員／デザイン学部

6

友達が必要かどうか、それは明確に答えがあるものではないと私は考えています。

友人とは必要だから、作らなければならないという動機で生まれる存在ではなく、また長く付き合う間柄になることは稀でしょう。

そもそも求めているであろう『友達』という間柄は、意図や意識に関係なく発生し続いていくもの。自分が自分として過不足なく居られる在り方を受け入れてくれる、そして自分が受け入れられ蟠りなく付き合うことが出来る相手が何れ現れます。その時、きっと意気込んで友達になろうと思うことなく、気がついた時に友人になります。

その上で、友人というものを必ず要するとは言いません。しかし、不必要と切り捨てる必要も同等にありません。そういった余計な思考の先に、長く付き合う気の置けない友人というものは現れるでしょう。

しかし、だからといって何もせずに居れば自然とできるだろうと慢心しては駄目です。人との関わりを自ずから生むことなく生きていても、誰も関心は向けてきません。もしも友達は要らないとまで思うことがないのであれば、自分もまた能動的にやる必要があることを忘れてはなりません。双方が共に働きかけることにより、作り出されるものなので。

以上を踏まえた上で、自分の周りの状況、自分の考え、他者の考えを過不足なく柔軟に咀嚼し、必要か否かを改めて判断するのが最善の方法かもしれません。誰かの判断基準で必要不必要を断じず、自分自身で思考することを忘れずに。この話に限らず、どんな事にも当てはまる考え方だと私は考えているので、どうか一つの参考になれば幸いです。

在学生／人文学部

7

結論から「必要でもあるし必要でもない」です。いわゆる正解のない話なので重く考えない方がいいと思います。質問者自身に合った人付き合いを考えて実行に移した方が気苦労も減ると思います。もし、引かれたとして疎遠になったらそれまでの関係だと割り切れる方が楽でいられると私は個人的に思っています。

在学生／マンガ学部

8

必要です。その繋がりがいつかあなたを助けてくれます。

在学生／マンガ学部

9

私は常に一緒にいる友人は居ないけど、なんでも話せる友人が片手分ぐらいいます。こまめに連絡取り合うのが嫌いで一人の時間を重視するのでLINEも必要最低限のことだけしかやり取りしません。その友人らと一緒に遊びに行くこともあまりないです。でも、私はそんな友人らが大好きなので命をかけれます。そんな人が数人いるだけで私は満足しています。

大学では友人と言って差し支えない人は1人しかいませんが、常に一緒にはいませんし滅多に話しません。授業のことやちょっとした世間話する程度の知人は数人居ます。あなたが必要と思う関係を仲良くしたいなと思った人と築けたらそれでいいと思います。

あなたが自分らしさを大切にしたら時、それを認めてくれる人が1人でもいればそれでいいと思いますよ。そこで関係が切れる人とはこの先どこかで関係が切れることがほとんどです。なので、私は友達付き合いに気を使いたくないので積極的に友達を作りませんし、媚び売ったり合わせたりすることは無いです。もし、こいつならって思える人が見つかったら、互いの距離感の妥協点見つけて死ぬまで仲良くすればいいです。

最悪、友達0でもそう簡単には死にません。

私からすれば、自分殺して生きてる方が嫌です。

他人に迷惑かけないなら好きに生きればいいと思います。どんな決断しても辛いことがあると思いますが、それが人生ですし、辛いことがあるから楽しいんだと思いますよ。長くなりましたがあなたにとっての最適解、見つけられることを願ってます。

在学生／人文学部

10

大学は常に一緒にいるということがほとんどありません。なので無理に合わせなくて大丈夫です。お昼を一人で食べることもよくありますし、一人で食べている人は大勢います。自分の心地いい距離感を保って接することができるのでそこまで気を遣って生活することも、無理に友達を作る必要もありません。授業やサークルで自然と仲良くなれることが多いのでぼっちになることもほとんどないですよ。

在学生／ポピュラーカルチャー学部

11

気を使わなくちゃいけないってただ付き合うのに疲れるだけの友達なら無くてもいいかもしれません。でも気は使うけどそれ以上に一緒にいて楽しい友達なら必要だと思います。友達がいて目(視点)が増えて情報や知識も1人の時より増えるので、友達100人とまでいなくても、何人か居たら気負わないペースで付き合って遊べると思います。

在学生／芸術学部

12

大学に入ってから現時点まで友達は誰一人としていませんが、特に何か困るということはないです。とは言っても、それは私が今まで友達があまりいなく慣れてしまっただけ、とも言えます。大学に行って一言も喋らずに家に帰るということが毎日続きますが、特に寂しいとかそんな思いはないです。SNSをしていれば常時誰かしらと話すことも出来ますし、家に帰って猫をもふもふしていると何もかもどうでも良くなります。正直、友達がいても、自分の時間がとても増えるので私としては凄く嬉しいです。これは極端過ぎますが、友達と過ごす時間は私にとって無駄なもののように感じます。

在学生／人文学部

13

必要かはその時の自分の状況によると思います。友達は必要なく、一人でもいいと思たらひとりでも全然大丈夫です。常に何でも話してすごく気があうような友人に出会うなんてほとんどないと思いますし、そういう人に出会えたらどんなに環境が変わっても離れることはないです。今はネットもありますから余計にそのつながりが切れることはないと思います。自分のペースでその環境に馴染んでいって、自分に合った友人関係などを見つけていけばいいですし、全然友達が絶対に必要なんてことはないです。

在学生／デザイン学部

14

あくまで体感ですが、大学は色々なところから色々な人が集まってきているので、高校までの人付き合いとはまた違ったものを要求されます。思いもよらないほど気の合う人もいれば、信じられないくらい嫌いになる人までたくさんです。その中でなんとかうまくやっていこうとすると、時には柔軟な、言い方は悪いですが、嘘をついたり愛想良くしたりと、無難で波風立たないような対応が必要となることもあります。

ただ、全部が全部そういうわけではなく、例えばサークルに所属している人の中だったり、同じクラスの人の中だったり、一人二人くらいは、本音で愚痴を言い合えるような、気の置けない仲の友人も自然とできるものです。そういう人たちを大切にさえいけば、あまり「友達を作らなきゃ！」と気負う必要は無いと思います。

在学生／デザイン学部

15

友達は必要だと思います。プライベートがより楽しくなったり、1人では思いつかなかった意見が生まれたり、困ったときに助けてくれたり等、友達がいて起こる良いことは本当にたくさんあります。ですが、その良いことが起こるためには「どんな」友達なのか、がとても重要だと考えています。

私は本音で話せない友達は必要ではありません。そもそもそれを友達だとも思いません。一緒に居て苦では自分を苦しめます。それだったら私は1人を選びます。(変人扱いされる可能性もあるかもしれませんが、友達を増やしていけば後から印象は自然と変わってくるでしょう)

事実、私は大学入学の初めの頃は特に誰かと一緒にいることもありませんでした。学校の中で周りの人と話していくうちに、気が合う人を見つけたり、まあまあ喋る人を見つけました。数は多いわけではありませんが、必要以上にいてもまた疲れるだけです。話していて楽しい人、本音で話せる人や尊敬できる人を見極めつつ、少しずつ増やしていくべきです。

でも、あなたの「気を使ってしまう」友達だって、今は表面上の関係だろうと、これからもっと仲良くなることもできます。どうしたらいいかと言うと、少しでも自分の思ったことを正直に言うことです。当たり障りのない会話よりも、ぶつかったりちょっとズレていたりする会話の方が楽しいですし、相手もあなたにより人間味を感じられるだろうと思います。

もしそれで相手が機嫌を悪くしたりしたならば、相手と相性が悪かったか、もしくは相手は「友達」が欲しかったのではなく、「都合よく一緒にいられる人」が欲しかっただけだと思います。そんな人と一緒にいる理由はありません。縁を切りま

しょう。あなたの人生だからあなたが一番楽しく快く生きられることが大切です。一緒にいて楽しい人、尊敬できる人を見つけてください。

在学生／マンガ学部

16

ぼっちでいるのは、高校や中学に比べて大学のほうが楽ですよ。大学は高校や中学に比べて人の数が多い、キツイ言い方ですがぶっちゃけあなたの事はほとんどの人が興味ありませんし知りません。よほど有名人なら別ですが。それに、大学は自分で授業を選択します。これまでの学校のように決まった教室授業を受けるのではなく、授業ごとに広い校内を人が移動します。高校とかみたいにずっと一緒にいるグループを作ることの方が逆に難しいと思います。なので、思い切ってぼっちになってみるのも私はいいと思います。

私は人間誰も親友を作らないといけないとも1人で居てはいけないとも思いません。それは多数派の人間が作った普通であり、人間にはそれぞれ個性があるのでその型にはまる必要は無いと思います。それで、1人で居たい、気分が乗らない時返信しないなど「そういう行動をとっても許される自分」をつくる。すこしずつ自分のわがままを許せるよう行動してみる。ちょっとくらいなら自己中に生きてみたって大丈夫です。私がそうなので。ダメだったら叱ってくれる先生方もいるし。大学デビューってことで、新しい環境でほんとうの自分をちょこっとだけ出してみてもいいのでしょうか。少しずついいので。

それで誰かと気まづくなっちゃったらススーって離れれば良いのです。授業被らんようにするとか離れる手段はあるのですから。深い関わりになる前に適当にかわす、そういう友達付き合いもありだと思います。この際大学デビューならぬ新しい理想の自分デビューをしてみるのもいいと思います。他人のことを気にし過ぎて生きるくらいなら自分の好きなように生きてみましょうよ。自分にとって暮らしやすい大学生活ができるよう、怖がらず行動してみてください。応援しています。

在学生／マンガ学部

17

1人で生まれ1人で死ぬので必要がないと言えなくはないです。あなたに共感してくれる人が現れ親友と呼ばせてくれるかも知れませんが心を許し本音を言えばその関係も壊れるとも限りません。自然体でいて気があう人が現れるといいですがその程度のものですから無理しない事でしょう。

教員／マンガ学部

18

結論から言えば「必要か必要で無いか答えはありません」し、あなたのことなので最終的にはあなたが考えて答えを出すことになります。が、そのために私から幾つか大学生活を通して感じたことを伝えて判断材料にして貰えればと思います。まず、私は入学当初、決して仲が良いとは言えない人と一緒に居ました。これから仲良くなれば良いなと思っていましたし入学当初は分からないことも多かったので1人で行動するより良いと思っていたからです。しかし今、その人達とは一切話すことはありません。喧嘩だとか問題があった訳ではありません。お互いに心地よくないと感じて自然と離れていったのです。理由が無いこともありませんが、ほぼ自然の流れでした。その後は1人で行動することが多くなりました。

私はいわゆる「ぼっち」というのがとても苦手なので出来る限り誰かと仲良くなろうと挑戦していました。何人も仲良くしてくれる人達は出来ましたが、ここで夏休みに入ります。そして夏休み明け、入る前と同じ雰囲気話しかけるも相手にされず「やっぱり上辺かよ、ビジネスライクかよ！」と思いました。正直、滅茶苦茶に凹みました。ですが相手にも私から離れたいと思う理由があったのでしょうし人それぞれ感性は違いますから無理に一緒に居なくても良いなど次第に思えるようになりました。こういったことが一度に限らず何度もありました。そして今、心の内を話せる人は1人だけになりました。ほとんど毎日、1人で過ごすことが多いですが「仲良くしたい！」と思える相手に出会えば、もちろん積極的にコミュニケーションを取るようにしていますし、1人で学校生活を送るのも苦ではありません。むしろ自分の時間を上手く扱える人にはもってこいかなと思うくらいです(課題もたくさんありますし笑)。ここまで、私のこれまでの話をしてきましたがどう感じましたか。友だちが必要か必要でないかという間は自問自答した日が何度もあります。ただ、私が選んだ答えは「知り合いも友達も親友も全員他人で心の内など知ることも無い」ということです。そして、「自分が誰かに合わせる程、時間の無駄で疲れることも無い」ということです。この人は知り合い程度だからこう接しよう、友達だからこう接しよう、親友だからこう接しようなど考えるだけ正直無駄だと思っています。(個人差あるのでじっくり自身で見つめ直してください。)言いたいことは言えば良いと思いますし、もしそれが悪影響を及ぼして友好関係にヒビが入るようなことがあれば、その人との関係はそこまでのものだったんだと割り切る方が楽な考えだと思います。「あ、自分が言いすぎたのかな、申し訳ないことしたな」と考えることも大事ですがそれは自分の中に留めて、それ以上のことは相手次第なので時の流れに任せましょう。話がまとまっていなくて申し訳ない気持ちですが、まとめると「友だちだとかグループ化してまとめない」「あなたはあなた、他人に介入せず自分を大切に」「少し話せる程度の人は自然と出来るので学校生活に影響することはほとんど無い」

ちょっと言い方が悪くなってしまうですが先生や周りの同級生など利用出来るものは利用しましょう。自分の人生のためです。これは少し難しいので上手く説明出来ませんが大学生活を始めれば少しずつ意味が分かると思います。笑

あとは「やりたいことをやる！」

人と話すのが好きなら話す！苦手なら話さない！遊びたいなら遊ぶ！嫌なら遊ばない！誰かに自分の余裕を使えるほど私は上手く出来た人間では無かったので、その辺はさっぱりしていましたね。仲良くしたいから遊ぶし、どうでもいいから遊ばない。自分だけじゃありません。周りの人間は皆そんな感じで生きてます。罪悪感など感じなくても良いのです。自分は自分ですからね！

出だしから最後まで、まるで脅しかと言うくらいに赤裸々に自分語りをしてネガティブなことを伝えてしまいましたが、大学生活はそれ以上に楽しいことが多くあります。普段1人で行動してる私が言うので間違いありません！笑 今までの人生より少し勇気を出す必要がある場面が多いですが、それさえ乗り切っしまえばハッピー大学生活は頂いたも同然！あなたが楽しい大学生活を送れることを願って、今回の質問に対する答えを終わりたいと思います。長くなってごめんなさい！読んでくれてありがとう！自分を大切に！

在学生／人文学部

19

「ぼっち」になるのが嫌な方なら必要だと感じます。どんな話ができる相手かというのは人によって違いますし、同性じゃないとできない話、異性じゃないとできない話、またはトランスジェンダーの場合は自分と同じ嗜好の人じゃないとできない話、それぞれあります。なので人によって話す内容は変えたりする事で相互的に自分の負担を和らげられる相手が友達だと思っています。

友達の定義というものは人によって違いますし、「常に一緒にいないと友達じゃない」という人や、「1人の時間と友達の時間は分ける」という人もいます。その点を考え始めてから、私は友達について悩むことも最近は無くなりましたし、友達と過ごしたい時はサークル等のイベントに参加したり、食事に行く約束をするくらいの規模で楽しんだり話をしたりする事にしています。

大学に入るとますます人が増え、自分と合った意見の人が増えるので自然と自分のことを話したり、話してもらえたりしやすくなりますよ。

在学生／デザイン学部

20

空気を読んで周りに合わせて気を使う相手は本当にあなたにとって「友達」と呼べる存在の方でしょうか？

わたしはほとんどの時間を1人で過ごしているいわゆる「ぼっち」です。確かに周りを見ると一緒に行動している友達同士の方は沢山いて正直少し羨ましいです。

ただ、1人の方が集中できる場合もあります。例えば大学の講義の授業。お隣同士でお話をしている学生さんの声が本人たちの知らないところで妨害になってしまうこともあります。

せっかく授業に来たのに聞きたいことが聞こえない、気が散る、試験で単位を落としてしまうなど損をしてしまう場合も考えられます。さらに、1回生の頃は他の学部の学生さんと授業が同じで一緒に行動していたこともありましたが学年が上がる事に疎遠になる場合もあります。

わたしにとっての「友達」は地元にいる保育園からの知り合い達です。(地元を離れて大学に通っています)

学校という狭い社会だけを見るのではなく、もっと広い社会を考えてみるのはどうでしょうか？

また、授業によってはグループディスカッションをする場合もあります。その際、初めて出会う学生さんとお話する機会もありますが「友達」とはまだ呼べませんが楽しいと感じることもあります。

ですので、「友達がいる」状況が全てとは限らないと思います。「友達」よりは「親友」と呼べる友達を大切にしてみたいかがでしょうか？参考になれば幸いです。

在学生／マンガ学部

21

必要だと思います。自分はひとりで食事もショッピングも娯楽も楽しめる人間ですが、趣味で話の合う友人がいないと、話を共有できません。悩みを相談できる友人、なにかあった時に頼れる友人など、深い関係になるために友人をつくろうと思うと、友だちづくりへのハードルが高くなるので、まずは楽しくて好きな趣味の話題を共有できる友人がいたらいいと思います。ぶっちゃけ、苦しい話題はTwitterなどで垂れ流しにした方が楽になれる気もします。コースが2年次から分かれる場合は、2年次から仲のいい人達が安定しだす頃だと思います。嫌いな人、関わりたくない人と縁を切るチャンスです。

在学生／人文学部

22

大学生になっても友達付き合いには変わらず気を遣います。ぼっちにはなりたくないけど、1人の方が気楽というのはまああることです。たぶんそう思ってる人は学年に数人はいるはずなので、その人たちと友達になることができればその

後の学生生活は安泰だと思います。自分を相手に合わせるのではなく、自分に合った友達を探すことを重視してみてもいいのではないでしょうか。いわゆる『ぼっち』化の原因は、『友達作り期間に乗り遅れる』『自分から話しかけない』『対応が柔らかくない』『情報弱者』『友達になりたいと思えないような言動・思考・容姿である』などにあると思います。スタートでぼっち化を防ぐ場合、大学生になったらまず、最初の友達作りに乗り遅れないこと。コース内で宴会やら歓迎会やらが開かれます。それに参加するもよし、参加しないもよし(参加しない、大人数での宴会が苦手という人は他にもいるはずなので、その人たちと仲良くなれる可能性が高い)です。友達は、いた方が便利ではあります。休んでしまった授業のノートを見せてもらったり、共同プロジェクトを立ち上げたり、気の合う友人というのは存在するだけ、話すだけで気持ちになります。あるいは、単に同年代よりも先輩や後輩、もしくは先生、学外の人間の方が仲良くできるという人もいます。あなたが誰かと仲良くしたいという気持ちがあつてこういう質問をしているのなら、色んな人と関わってみてください。他人に対して疑心暗鬼になってつらいようなら、カウンセリングに行ってください。

在学生／マンガ学部

23

必要だと思います。でも、気を使うばかりではなく、少し本音も言えればいいと思います。本音を言って引かれるということは、本当の友だちではないのかもしれませんが。

在学生／人文学部

24

「友達」、の定義がわからないので、答えになっているか分からないのですが、「友達だからなんでも話せる」「友達だから分かり合える」という考えは、残念ながらやめたほうが良いかもしれません。「なんでも話せる」というのは、「言える範囲なら」という大前提があつてのことです。結局のところ、言える範囲でしか、なんでも話すことができないのですから、心の底から分かり合うことなど出来ません。「孤独は森の中にあるのではなく、街の中にある」と言われる通り、他者と分かり合おうとすればするほど、分かり合えない現実を知らされるのです。その結果、質問の文にもあつた「気を使わないといけなくて」になるのではないのでしょうか。

さて、ここから本題に入りますと、友達はいた方が良いでしょう。ここでもまず大前提として、「他者とは100%わかり合うことはできない」ということを念頭においてください。「気を使うのは、本当の友達じゃないからだよ」の甘い言葉に騙されてはいけません。「本当の友達」を見つけるために、今、目の前にいる人を無下にするのは、あまりにも勿体無く、悲しいことです。分かりあえませんが、分かりあえないからこそ、新しい価値観を教えてくれるのが友達なのです。井の中の蛙のままでは、大海を知りません。大海を教えてくれるのが友達なのです。

大学生活を送る上では、さらに友達の存在は大きいと言えるでしょう。自由な時間が多くある大学生活において、あなたの大学生活を有意義にしてくれる存在になるかもしれません。以上のことから、友達はいた方が良いでしょう。

在学生／マンガ学部

25

自分が必要ないと感じるのであれば、作る必要はないと思います。私の場合は入学時はイベントに積極的に参加したりと好印象を持たせ、周りと馴染んだ後は、「今が伸びるチャンス」「だんだん漫画描くのが楽しくなってきて忙しい」など理由をつけて少しずつ付き合いを減らしていきました。

現在進行形で、私は一人で行動しています。LINEは必要ないので辞め、どうしても連絡がとりたいたなら電話のみ受け付ける、大学生にとってのイベント(飲み会やお花見、旅行など)は絵を描く時間が惜しいと断ります。しかし、最初の数カ月で様々な人とコミュニケーションをとってきたので周囲の私に対する態度は変わっていません。挨拶はするがそれ以上踏み込まない、すると驚くほど時間やお金に余裕もできるし、自立もしくは自律だってできるようになります。

しかし、友達いないのは寂しいし怖いけど別に私には要らないという理由で減らしたわけではありません。本学のマンガ学部で例えると、先ほどの理由は全員に共通する問題です。「遊びたいけどもっと表現の幅を増やしたいから」「最近コツがつかめた気がするんだ」と言ったセリフは同じ夢を持つ者にとっては挑発だったり気付きだったり様々な効果を生むことだってできます。要は切磋琢磨を促しているのです。自分と同じ考えに誘導することもまたメリットになり得るのです。

質問内容についてですが、他人に意見を合わせるの悪いことではありません。しかし、自分の意見を貫くことも時には必要になります。だからと言って気を使いすぎる必要なんてないのです。

もう一つ、『親友』というものは、たった4、5年でできるものだと考えられません。もし友達を作るなら、仲のいい友達、趣味が合う友達、高校の友達程度の考えで構わないと思います。大学生活は所詮は4年。(大学院除く)けれどもし、これから付き合っていきたいと思えるような人物に出会えたら、少しずつ歩んでいけば良いと思います。

在学生／マンガ学部

26

友達は無理に作らなくていい！類は友を呼ぶと言う言葉通り。自分ににあった友達が自然と付いてくるから、将来的に素敵な人に出会えたらそれで十分だと思います！出会った人を自分が思うがままに大切にしていれば、自然とつく人はつきます！

私は、高校生の時どのグループにも属していませんでした。大体は特定のお友達(2人～3人)といえることはあっても、大体は、その場その場で話したいことを話したい人と話すという感じでした。幼い頃から、人を選ばずに誰とでも話せるようにと母が言っていた事で、人を好き嫌いで分けずに、いろんな人がいるんだと言うことに面白いと感じる性格だった私だったので、、、。しかし、学校のイベントごとや遊ぶ時にはグループがないわけには行かないですよ、その際には少し寂しさを感じることはなかったです。

だから、普段当たり障りのない性格の私でしたが、そんな時は割と積極的に友達を誘いに行ったりして。少し焦りを見せながら過ごしていたように思います。しんどいですよね笑

でも、そんな高校生活が終わればみんな大学の友達に変わったり。就職をした人は試験や資格で忙しかったりで、徐々に会わなくなって、最終的には知らず知らず高校の友達の中で会う人は定まっていました。

大学でも一応私はあるグループにいました。でも大学は取りたい授業を選択するので、そこで勝手に会う時間は減っていくし、一人暮らし組か実家暮らし組かサークルしてる組かで、自然と離れることも普通なのかなと思いますね！

そして、就職なんてしたら県外に出ちゃう友達もいるし、その時点でまだ会うことができる友達が自分の中の大切な友達だと思っていいと思うし、要するには友達は無理に作らなくてもできるという事だと私は思っています。

在学生／人文学部

27

まあ欲しいかな。高め合う仲間は必ず欲しいとおもうよ。

在学生／デザイン学部

28

人によって違うと思いますが、一つの友人もないのは絶対ダメ、万が一なんの緊急的なことが出たら大変かもになる恐れがあります。私は友達が多くない人ですが、四、五人程度でお互い相性と価値観もぴったりして、このままで満足と感じる。友達は量のより、質の方が大切です。多すぎると、逆に面倒になります。

在学生／マンガ学部

29

高校の時、同じバスケ部の仲間ととても仲が良かったです。彼女たちというと、笑わない時がないです。

高校時代のクラスメイトもそうです。彼女たちというと、笑わない時がないです。

大学にはいって、私は友達がいませんでした。サークルに入ってようやく友達が沢山できましたが。私の話で笑ってくれるのですが、私が笑うことはありません、大学で思いっきり笑ったことがないです。

時々高校時代の友達にあうと、最近笑ってないわー。という話題になります。そしてその時には必ず笑っています。笑いが耐えません。大学生活は楽しいけれど、とてもストレスが溜まりますし、、そういう時思いっきり笑わせてくれる、信頼出来る仲のいい友達がいるだけでだいぶ違いました。やはり友達。というより、仲間を作る方が大事でした。彼女たちのおかげで、今日私はこうして文を綴っています。

在学生／デザイン学部

30

意外と必要...っていうか、京都精華大学に入学したら勝手に友達できますよ。協力する授業が沢山あって、先生もとても協力的で授業に参加すればするほど友達が増えていきました。学部とか関係無しに友達ができましたし、授業が終わった今でも見かけたら声をかける程度には仲良しになりました。

在学生／芸術学部

31

友人は必要だと思う。私はいつも一緒にいる友達すらいなかったのが友達や親友が超欲しかった。だけど大学に入りたての頃はむしろいるもんかとも思っていた。それは質問者の言う友達同士の暗黙のルールとかが嫌だったし、他にも心を許したのにいつか見捨てられ惨めな思いをするかもしれないと怖がっていたからだ。

だけど良い関係を築ければただの友達も悪いもんでは無いと思う。だから友達から無理に親友になろうとはしないでいいと思う。質問者にとって友達のままだが人間と、親友になれる人間は別だと思うし、どちらにも良さと悪さがある。しかしあなたがどのように接していけば友達とも親友とも不満の無い良い関係を築けるのか、ということが問題だ。

相手の様子を伺うことに疲れると言うが、それはそういう性分のあなたが悪いのか、相手が悪いのかどちらなのだろうか？悪いとまではいかないにしろ、どちらも変わろうとする意識は必要だろう。自分が気にしていることを相手が意外と気にしていないことは多い。質問者はおそらく不安が働いて相手に色々気を使いすぎているのだと思う。だから自分にとって負担にならない程度の気遣いラインとそれを受け入れてくれる友人を見定めるのが良いのではないかと思う。

京大のゴリラ研究してる教授が人間の幸福は他人に認められることと、信頼関係を築くことです、とか言ってたので努力して良い友人、親友を作ることはそれなりに意義があることだと思います。

在学生／芸術学部

32

スナフキンです。僕は人から離れてみることを君に勧めてみます。もちろん勇気のいることです。そして一人でいることは確かに孤独です。寂しいです。僕も君と同じように一人でいると逆にめんどくさい、嫌だなんて思ってた時期もありました。でも、いざぼっちになってみるとそんなに悪くないです。むしろ、僕はぼっちになったことで新しい着眼点と発見に出会えました。

～僕の体験談から～

僕はぼっちという経験からいつの間にか孤独や不安で悩んでる誰かに手を差し伸べたいと思えるまでになっていました。どういうことかと言うと、自分の心の苦しさや孤独の痛みと日々葛藤しているうちに、同じ様なことで悩んでいる人たちに近づいていたというわけです。

自分の悩んでいることって大体誰かも悩んでいることなんです。だから、心の苦しさや孤独の痛みと葛藤することは決して無駄なことではありません。実は自分と誰かに誠実に向き合っている時間なんです。僕の場合は、こういう日々があったからこそ、そういう誰かを自分のことの様に考えられるようになっていました。

ある時、僕がある人と悩みや苦しみを包み隠さず共有した時、今までにちょっとなかった関係が生まれたんです。お喋りするだけの仲の人とは違います。例えるなら「私とあなた」の関係です。俗に言う「信頼関係」です。こういう信頼関係が築くことが出来たのは、やはり「ぼっち」という下地があったからだと思っています。「人から離れることで、本当の意味で人を知り、思いやる事が出来るようになる」という考え方もあるということを君に伝えておきます。参考になれば幸いです。

在学生／人文学部

33

めんどくさですよ。確かに。LINEをしても返ってこなかったり遅かったりスルーされたり。自分はしっかり返して反応しているのにどうしてあの人は...なんて風に思うことはしょっちゅうですよ。こんなに風に見える僕は友達いらなさそうですねw...でも僕には友達が必要です。

こう言う愚痴を言えるのも友達にだけです。それにこいつ嫌いやしもういいやって思える人は友達にしてません。喧嘩しても気に障っても仲良くしたいと思える人だけを友人として大切にしています。そう思える人があなたにいないのなら友達はいらないのかもしれませんね。相手にどう思われているかを想像することは大事ですがそれを主軸に人間関係を築いていくといつか崩れますよ。

在学生／芸術学部

34

一人が好きになるのが大学時代。友達が少なくなり、その中から一生付き合う仲間ができます。1年に1度しか会うか会わない友達でも心が通じ合っているのが分かるようになります。大学時代、一人で制作しているうちに分かってきました。体験談です。

教員／芸術学部

35

授業とかもずっと同じ人と履修しないことがおおいのでそこまで深く一人の人に関わる必要はないです。お昼も一人で食べる人も場所によって普通にいますし、時間をずらせば人が少なくなってもっと気楽に食べられます。社会に出る準備なのである程度は関わりますが、授業で出会うぐらいで高校ほど関わらなくて大丈夫だと思います。

在学生／人文学部

36

大学以降からはぼっちになることが簡単になります。でも、嘘っぱちの友達を作る必要もなくなります。あなたが今言っている友達って、本当に友達でしょうか？それは大学を卒業して、社会に出ても必要人付き合いってものではないでしょうか。友達を作ることは面倒なものではありません、勇気が必要なものです。あなたの近くにもいるはずですよ。勇気を出して、本音を見せ始めたら、同じく本音を見せてくれる相手が。そういう「友達」との付き合いはより難しいものなのでしょう、決して面倒なものではないでしょう。

在学生／マンガ学部

37

そうですね。「友だちって本当に必要ですか？」これって自分にとってのメリットを第一に考えているかもしれません。自分にとってのメリットだったりとか、自分を中心とした相手との関係を考えていては、これってメリットあるの？とか、デメリットしかないかも？とか、二極化した考えてでしか物事が捉えられなくかもしれません。特に人との関係は決してそうではないと思います。まずは自分を中心とせず、まずは相手の事を考えて自分には何が出来るかと考えてみてはどうで

しょう。そして行動してみてもはどうでしょう。そうすると相手から必要とされてくるし、自分の居場所も作る事が出来ると思います。そして結果的に自然と友達が出来ているんじゃないでしょうか。

教員／デザイン学部

38

私は、ほんとうに気の合う人とだけ、いるようにしてからの方が、とても楽でした。私も大学入学当初は、友達たくさんいたほうが何かと得だし、ハブられたくないと思っていたけれどそこに費やす時間も、お金も、気遣いも、どうしたって増えていきます。「ずっと一緒」がデフォルトになると、そうじゃないとき、不安に駆られることもあると思う。大学生になるときに、せっかくだったら「ずっと一人になる」ことを恐れない自分になってみる、勇気を持ったらどうだろう。あなたと同じことを考えている人は、必ずいるから。天気がいいから、お昼休みは散歩をしてこよっかな、今日は体調があまりよくないから、休み時間はちょっと仮眠とろっかな、そうやって、ほっとできる時間を持つことを、自分に許してあげてほしい。そんな自分でいられるよう努力をしていたら、同じようにそれを大切にする人たちと、自然に仲良くなれるから。

職員

39

友達。自分のことをよく理解してくれている友人は2、3名は必要です。困ったときに相談したり、嬉しい時に一緒に喜んで相手です。それ以外の知り合いは適当につきあっていたらいいと思います。この、「自分のことを本当に理解してくれる、なんでも言うことができる友人」と巡り合うことは、実は大変なのですが、共に苦勞をすること、例えば大学で一緒に同じ課題に取り組む仲間、サークル活動に取り組む仲間たちの中で出会うことが多いので、大学生活に期待しましょう。私には友人は3名います。

教員／デザイン学部

40

まあ、いて悪いものではないと思います。私もそれほど人付き合いが得意な方ではなく、友人との付き合いが「面倒だな」と思うことも正直あります。友人には悪いですが…。高校生や大学生の頃は友達の数っていうのは、クラスや個人的なコミュニティにおける重要な指標のひとつで、そのヒエラルキーの中での自分の位置を決めてしまうもののように思えてしまいましたが、実際はそうでもありません。あなたが本当に友達付き合いが好きで、数多くの人と関わって色々な体験がしたいと思うなら、たくさん友達を作るのも良いでしょう。逆に自分ひとりの時間を大切にしたいとか、友達との様々なやり取りに疲れてしまうのであれば、無理に過剰な友人関係を維持しようとしなくても良いと思います。自分の生活リズムやプライベート等を考え、身の丈に合った(またそれを理解してくれる)友人関係を作り上げれば良いでしょう。相互に相互の生活や趣味などを尊重して、ズカズカと個々のプライベートな時間に踏み込んでこない友人こそ本当の友人であると言えると思います。そういった友人を少数でも幾人か持つことができれば、人生はより充実してくるのではないのでしょうか。

教員／マンガ学部

41

程よい距離感の友人は数人は必要。LINEなどで繋がってなくても直接電話したり、会って話せる本当に仲の良い友達が一人でもいればいい。

教員／マンガ学部

42

まず自分にとって「友だち」とは何か、考えてみてはいかがでしょうか？考えることが難しかったら辞書をひいてみて、心にとまる説明を見つけてみましょう。「友だち」という言葉は1つの単語ですが、現在あなたが「友だち」と思っている人は複数いて、それぞれ関わり方が違うと思います。高校までは「友だち」とは同じクラスの人、同じ部活の人など、あらかじめ決められた小さな枠になることが多いかもしれません。

でも「ぼっち」になるのは、もっとめんどくさい。というあなたの気持ち。枠がある世界では、そこから外れることはとても大変なこと、という意味でしょうか。大学では、専攻やコースというのがありますが、基本的に学びや生活を自分自身で選択して、形づくっていくことになります。時間割が誰かと全て一緒ということはほとんどありません。

一方、京都精華大学では、いくつかの授業において、グループワークや共同制作などを大切にしており、その際は、同級生と協力をして作業を進めていくことになります。「共に学び合う学生」として、空気を読むのではなく、意見を出し合って新しいアイデアを見つけたりするつながりです。

あなたにとって「友だち」とは何か、すぐに分からなくても、大学に入ってすこしずつ感じてもらえるといいなと思います。「友だち」をつくるかつくらないか、「友だちづきあい」を気を遣うものにするかしないか、全てあなたの自由です。

大学では、いろんな学生や先生、職員との出会いがあります。もし1人で困った時も、誰かに相談できる環境がありますので、安心して下さいね。一緒に考えていきましょう。

職員／事務部門

43

おそらく多くの人があなたと同じ思いを持ったいるはずです。私は、大学に入ってからひとりであることや、友達の目を気にすることが少なくなりました。大学には今までとは違う環境があって、誰もが自分の生きたいように生きているように感じます。友達は必要かと聞かれれば必要だと思います。助けてくれる人は作っておいた方がいいと思います。そして、自分も多くの人を助ける行動をして味方を多く作っていくのはどうでしょうか？ただ嫌々付き合うのではなく、なかなかな感じで、深いことは考えずに付き合ってみるのもいいと思います。案外受け入れてもらえると思います。

在学生／マンガ学部

44

まず、量より質だ。正直な所、一緒に居ても、常に空気を読む必要があったり、顔色伺って合わせる必要があったり、慎重に言葉選んだりとか、そう言った関係の浅い友人は自然に出来てしまうし、自分に必ずしも良い影響を与えくれるとは限らないので、特に気にする必要は無いと思う。勿論社会人になったら簡単に切り離せ無いが、まだ学生なので、そういう付き合いに疲れを感じたら、無理してやる必要は無いと思う。

大事なのは、人生で少なくとも良いので、1人や2人ぐらい本心を話し合える友達を作る事。たまに意見の相違で喧嘩したり、冗談言い合ったりもするし。互いの欠点や癖を認め合いながらも、本心をぶつちやけられたりもする。お互い、助けが必要になると、真っ先に手を伸ばせる、伸ばしてくれる。一緒に泣いて笑ってくれて、背中を推してくれる、そんな気の合う方に出逢えた時は、一生ものの友達なので、絶対に大事にした方が良い。

在学生／芸術学部

45

自分の気の向くままにすればいいと思います。周りに流されるままではなく、作りたくなかったらそうすれば良いし、気の通じる何人かはいて欲しかったら探せばいいのではないのでしょうか。「みんなそうするから」ではなく、「自分だから大丈夫」が大事だと思います。

在学生／マンガ学部

46

必要だと思っています。友達は家族よりも話せることが多いですし相談もしやすいと感じています。

在学生／ポピュラーカルチャー学部

47

私は高校までの友達はそこそこ居ますが大学には友達1人もいませんよ。あなたの言うとうり友達付き合いが面倒なので敢えて作らないようにしてます。もしこの人と仲良くなりたい！って人と出会えたら良いですがわざわざ無理やり仲良くすることはないと思います。大学でぼっち怖くないですよ。私は大学での青春や友情を完全に放棄して授業や課題に専念して評価Sハンターやってますが大学の楽しみ方は人それぞれです。友達や恋人は課外でも出来ますよ～お気楽に。

在学生／マンガ学部

48

友達が必要かどうかは人それぞれです。でも、何か困ったときに相談ができる相手がいるのはありがたいことがあります。18歳を過ぎ、選挙権をもち、「成人」になる時期、自分で選んだ場所にいる人たちと交流する、というのは社会人になるとあまりないと思います。一定の距離を置きつつ、適切な距離感の中で交友するのもよいでしょうし、もっとどっぷりと相手との距離を縮めるような交友もよいかもしれません。その中では痛い目にあうかもしれませんが、3000人を越える仲間たちのいる場所です。痛い目にあったらその経験をいかしてほかの仲間と交流する事もできます。そんな中でもしかすると、本当に相手とわかりあえる(と思える)ような「親友」と出会う事もあるかもしれません。1人で自分のやりたいことを進める、そんなことができるのも大学ですし、適度に交友関係をもてるのも大学です。先輩や後輩、教員や職員、警備員さん、用務員さんなどいろいろな人たちがまざりあう大学という空間で、年齢や国籍、性別などに関係なくいろいろな人たちと接する中で新たな発見を得る。「友達」という括り方にとらわれずに「交流」することを体験してみればど

うでしょうか。単科大学ではなく、一方で大規模なマンモス大学でもない適度なサイズの本学ならではの交わり方が本学にはあると思いますよ。

職員／事務部門

49

大学では高校までよりも1人で行動することが多くなると思います。1人だと制作や研究に打ち込めるので、友だちがいないのも案外いいかも。でも、孤独は心を蝕むことがあるようです。(寂しいのは別にいいなと思っています。寂しさは人を強くしてくれることもあるので。私はわりと好きです)無理に「友だち」と名前をつけなくてもいいので、うつむかずに顔をあげて、周りの人と向き合って過ごしてほしいなと思います。

職員／事務部門

50

友だちは、多分、必要。でも、多くなくていいです。1人でも。大事だと思える人がいればちょっと強くなれるかもしれません。1人が好きな人もいます。「ぼっち」ではなくて「1人」。私、1人がいれば満たされると感じるならば、無理して繋がれない人達という必要はないと思います。友達は人生で5人くらいいれば上々。高校生だったら、まだ友達がいない人が沢山いると思いますよ。"

教員／マンガ学部

51

こんにちは。結論から言うと、無理な友達付き合いはする必要がないと思います。私も高校生、大学初めの頃は人に合わせる事が多いタイプでしたが、最近は自分がやりたいことをやるし、やりたくないこと行きたくないことは断るようになりました。自分が気の進まないことにお金や時間をかけることの方がストレスだと感じたからです。高校生の時とは違い、大学にはクラスがほぼありません。特に私のコースは3年生からゼミのようなものに別れるので、それまで仲良かった子たちとも離れることが多く、本当に今は大学で仲良い子が少なくなりました。ですが、それを苦痛とは思いませんし、他のコミュニティで仲良い友達がいるので、毎日楽しく生活しています。大学生はコミュニティが高校生の頃より増やすことが出来ます。バイトやサークル、学校、課外活動、趣味の友達など自分で広げられることが多いです。そこで自分に合ったコミュニティを見つけられれば、無理に学校で仲良い友達を作る必要はないと思います。質問者さんが、本当に気の合う友達と出会えることを祈ってます。

在学生／デザイン学部

52

高校までと違って大学ではそこまで気にしなくて良いと思う。集団行動があつてクラス単位でなにかするわけでもないし、何より大学には好きなことを学びにきているから友達より学びを優先するべきだと思う。

在学生／芸術学部

53

今後もやさしさの気遣いはあると思う。でも、あなた自身が高校を卒業して大学生になって少しずついろんな経験を積み重ねていくうちに、自然と人との距離感をうまくつかめるようになり、バランスがとれてくるかも。

職員／事務部門

54

大学生活の中で一番大事なことは、「自分がどうしたいか」だと思っています。大学では、どの授業を受けるか、どんな風に課題に取り組むのか、自分のことは自分で決めていくことになります。せっかくの自分の人生なのに、他の人の意見に左右されていてはもったいないですよ。

私は「自分がどうしたいか」をしっかり持っていて、生き生きと大学生活を送っている人と話したいし、一緒にいたいと思います。友だちは本当に必要なのか？というご質問でしたが、自分が自分でいられないような人とはあえて一緒にいる必要はない、というのが私の意見です。

ただ、お互いに「自分がどうしたいか」をちゃんと持っていて、いい影響を与え合える「友だち」は、あなたの人生を本当に豊かにしてくれるはず。

自分の選択に自信を持ってしっかり立っていれば、きっとあなたの周りには同じような人が集まってきて、いつの間にか大事な「友だち」が増えていくと思いますよ！

在学生／芸術学部

55

大学では、あなたがいま感じているその「めんどくささ」を共有できる人間と出会う可能性があります。根本的に他人とのコミュニケーションは「めんどくさい」ものですが、あなたの感じている「めんどくささ」を共有できる人間とのコミュニケーションはこれまでとは少し質の違う「めんどくささ」になると思います。それがもししたら「友だち」かもしれません。そしてその「友だち」との「めんどくささ」は案外気持ちのいいものだったりします。

職員／芸術学部

56

人生における友だちとはいったい何？なのでしょうね、仲良く遊びに行く、または楽しい時間を共に過ごす関係？それとも互いに切磋琢磨する、研鑽する関係？いずれにせよ人により「友だち」の定義は違うでしょう。ただ一つ言えることは社会に生きとし生ける全ての人間は決して自分以外の人との関係を断絶して生きることは出来ないということです。今から約50万年前、地球ではネアンデルタール人という人類が繁栄し、このネアンデルタール人は体が大きく個の力も強かったといわれています。ところがその後ネアンデルタール人は絶滅し、20万年前には人類は他の種族であるクロマ

ニオン人にとって変わってしまいます。クロマニオン人はネアンデルタール人ほど体も大きくなく力も強くなかったのですが集団での協力行動や生活が出来たといわれています。そしてこのクロマニオン人が私達人類の祖先なのです。遙か昔から現代までクロマニオン人が生き残れたのは他の仲間達と協力し合うことで、厳しい自然環境や苦難を乗り越え、現世まで生存出来たのだということなのかもしれません。つまり私達の遺伝子の中には個の力の優劣だけではなく、皆と分かち合い、協力し合うことで苦難を乗り越えられるような性質が備わっているのです・・だから社会を形成し、繁栄をしてきました。まあ、その繁栄したことによるリスクが地球において多くの問題を生み出した原因でもあるため、繁栄＝良いこと・・とは言えないかも知れませんが。話しが少し脱線してしまいましたね。とにかく友だちの定義は人それぞれですが、人の一生は結局一人で始まり一人で終わります。例えば血を分けた兄弟でも決して100%同化したり理解したり、分かち合うことは出来ません。だから他人を意識し、友だちの必要性に悩むのです。なので是非一度『自分には友だちが必要なのか？』ではなく、『友だちのために自分は必要なのか？』『自分は友だちのために何が出来なのか？、どんなことをしてあげられるのか？』という視点で関係性を探ってみてはいかがでしょうか。気をつかうことを面倒やしんどい・・と思わず、相手の気持ちや相手のことを心から考えてあげてください。『情けは人のためならず』・・自分のためではなく、人のために何かをしてあげることが出来れば、きっとそれは自分の人生の充実や幸せに繋がってくるのだと思います。最後になりますが、自分の弱みや夢を嘘偽りなく話し出来る人、またその話しに対してあるときは心の底から励まし、あるときは叱咤出来る・・そのような本音で対話出来る関係が真の友だちつまり親友なのではないでしょうか。因みに親友などそんな簡単にできるものではありませんし、私も人生において未だ2名程度ですけどね（笑）

教員／マンガ学部

57

私はいる方がいいと思いますよ。その方が楽しいですからね。喋りすぎて課題が進みませんが、友達という時の方が楽しいです。また、課題等で行き詰まってしまった時にもしかしたら打開策を提案してくれるかも知れませんかから、持っていて損は無いと思います。自分も最初は「余り必要ないかな？」と考えていたりしましたが、やっぱりいた方が楽しいです。

在学生／マンガ学部

58

私は友達が数人いますが、自分のやりたいことをする為に入学するなら、友人関係について重視する必要はないと思います。私の経験になってしまいますが、ぼっちだからといって、周りのみんなからハブられたり、イジメられることは無いです。ぼっちで過ごす時もありますが、息苦しさはあまり感じません。一人でいる時の方が楽ならば、一人でいても問題ないと思います。

セイカには「自分はこういう人だ」「私はこういう物が好き」など自分のことをちゃんと主張する人もいます。性格の波長が似ている人たちがたくさんいるので、焦らなくても大学生生活は楽しく過ごせると思います。

在学生／デザイン学部

59

友だちはこれから先ずっと必要だし、友だち付き合いは誰にとっても難しいものだと思います。でも、無理に一緒にいたくない人と仲良くする必要はないと思います。私も小中高大学時代にそれぞれ一人ぐらいしか仲の良いと思える友達はいませんでした。でも多くの人がそんなものだと思います。何でも話せる友達なんて一生に一人見つかるかどうかというくらいだと思います。

とりあえず、絶対に一人では生きていけないので、上部だけの付き合いでも良いので軽い関係で続けて、いつか深く関わられる友達が見つかったら良いのではないかなと思います。

応援しています。

在学生／ポピュラーカルチャー学部

60

無理して一緒にいる必要性はないと思います、私も今まで学生時代に沢山友人関係で悩んできました。大学に入ってからなかなか気の合う友達ができずずっと悩んでいました。みんな大学の新しい友達と遊んでいるけれど私は遊んでいない、とかそんなことを考えて焦っていました。入学当初は友達とお昼を食べていましたが、自然と1人で食べるようになりました。それが楽だと気づいたからです。同じ学部や他の学部にも『話すことが出来る友達』は沢山います。でも遊ぶとは思いません。無理して遊ぶ必要は無いなと感じました。私はバイト先や外部のサークルで友達を作り、今はその友達と遊んでいます。自分の楽しいと思える環境を自分で切り開いて行けば、居心地のいい空間が自然とできます。大学の友達は、作品のアイデアを共有したり刺激をもらったりする存在として関わっています。自分が必要だなと思った友達と関わっていけばいいと思いますよ。

在学生／芸術学部

61

心が通じれる友達がいると、人生は何倍も楽しいですよ。本音全然話せるし、やりたいことがあって誘ったら、全然付き合ってくれるし、もちろん相手にもやってあげる必要があります。しかし、心が通じる人なので、やりたいこと、考え方は違うかもしれないが、根のところは似てるです。だから、一緒に何をやっても楽しいですよ。一番難点なところは心が通じる友達を見つけるのは本当に難しいです。でも世の中に絶対います。こんな人に出会うために最初から友達作りを諦めると見つかるチャンスがゼロになってしまいます。これから自分からチャンスを作ってください！

在学生／マンガ学部

62

そんな悩みがあるって、優しい人なんだな。そんな印象を受けた。正直な話、私は大学でも人に凄く気を遣う。というか、友達がいてもいなくても他人がいる環境ってどうしても気を遣わなくちゃいけない。気を遣わなかったら生きていけない。でも京都精華は本当に色んな人がいるから、ありがたい事にあまり気にせず素の自分でいても自分は何の問題もなく過ごせてる。

腹を割って話せる親友がいないってことだけど、今すぐ作る必要なんてない。そういう人は本当に突然現れてくれる。どんな縁とか関係なく、本当に突然。だからそれまで待ってればいい。

じゃあそれまでどうするか？とりあえずは今の友達を大事にすること。「親友」たり得る人が突然現れてくれるとは言っても人と関わることをやめたらそこで人脈は途絶えてしまう。別に人脈を無理して広げなくていいし、苦手な人がいたらそれは絶ってもいい。でも、今の友達は腹を割って話せないとしても少なくとも「友達」なのだから、大事にすべき。

ただし、その「友達」に少し引っ掛け問題を出してみてもいいかも。例えば、LINEの返信はすぐに返さず自分の好きなタイミングで返すとか。遅れたら「遅れてごめん〜」ぐらいでいい。それで許してくれないならそれは友達じゃない。許してくれるならその関係をより大事にする。

今いる友達の中に、もしかしたらあなたのことを一番仲がいいと思っている人もいるかもしれない。そうじゃなくても、あなたのことを友達って認識してくれている人はいると思う。

それと、相手に気を使いすぎると相手は萎縮してしまうから友達と思うならあまり気を使わなくていいと思う。気を使うレベルは 家族<親友≦友達<赤の他人 の順で大きくしないとダメだけど。でもその基準をもう少し下げてもいいんじゃないかな。それこそLINEの返信なんて返したくない気分だったら次の日でもいいし、空気読めない発言しても「何それ一笑」くらいですましてくれるような人と一緒にいればいい。わざわざ気を使う必要ないところで気を使ってストレス溜める方がめんどくさい。

「ぼっち」がめんどくさい、に関してはよくわからない。私も休日はいわゆる「ぼっち」だけど、別にめんどくさくはない。ただ周りの好奇の目は若干煩わしいと思う。私はぼっち極めてるから一人ディズニーも一人ファミレスも一人映画もすべて網羅したけど…。

も〜あなたってば寂しがり屋さんなんだから♡(誰?)

そういう時は、一人でいてもいい場所っていうのを見つけるといい。例えば学校のラウンジ、例えば食堂の二階、例えば情報館(図書館みたいな場所)とか。私は大抵その辺をグルグル一人でぼっつき歩いてるけど一人が許される空間にいたら寂しさなんて何もない。めんどくさくもない。気軽にスマホ見て絵描いてたら時間あつという間に過ぎていくし。

人間が一人でいる時間は必要だと私は思っていて、それは要するに休息。冒頭でも書いたけど人という空間にいるのは知り合いだろうがそうでなかろうが気を遣ってしまうものなんだけど、一人でいる時間は気を遣わなくていいから知らないうちに気持ちが楽になる。

ただ、あなたにとって今はまだそれをするには時期尚早なのかな。友達といないと、誰かといないとぼっちはハブられてしまう、とか思ってるのかもしれない。

でも大学は高校までとは違ってコミュニティは全て人それぞれだから同じコースの同じクラスの人でも人脈が全く異なる。高校までだと狭いコミュニティだから相手の友達が誰だとかわかるもんだけど、大学の友達の友達は全然わからない人ばかりだったり、逆に自分の友達同士が友達で驚くこともある。「いつ繋がったの!？」みたいな。だからどんな交友関係だろうがぼっちだろうがハブられることはないし、みんなその辺のプライバシーは守るよ。

冒頭の答えで気を遣うとは言ったけど、あなたの想像する高校までの気の遣い方とはニュアンスが全く異なるもの。もし冒頭の答えで高校までの気の遣い方を想像したらごめんなさい。全くの別物だから。

大学での交友関係が不安なら、まずは素の自分でいてみたらいいと思う。私のいるコースの人たちは素でみんなキャラが濃い。私も最初の頃こそ大人しくぶりっ子してたけど時間が経つにつれて化けの皮剥がされたというか溶けてきた。なんでかっていうとそのキャラの濃い人たちを見てたら私なんて全然普通の人間だって思い知らされたから、別に何しても大丈夫だなんて思った。だから何も気にせずいる。

ただし、相手が不快にならないようには気を遣わないと。それは人間として大事なことから。修飾語とかは知らんけど大学の間くらいは倫理観とマナーさえ守ればあとは何してても生きていけると思う。

だからもし京都精華にすることがあったら、本当のあなたを見せてね！誰も引いたりなんかしないから！少なくとも私は応援してるからね！長文失礼しました！！

在学生／マンガ学部

63

ぜんぜん答えになってないし、自分の話で恐縮なんですけど、わたしはあなたくらいの年の頃、「友だち」がものすごく欲しかったんですよ。思っていることを素直に話せて、偶然似たようなことを考えていて盛り上がったり、深夜まで電話でおしゃべりしたり、ときには意見が違って喧嘩して、でもすぐに仲直りできたりする、そんな人をぼんやりずっと求めてたんですね。あなたが考える「親友」に近いのかな、と思いますが、「友だち」というのはそういうものだと思っていました。

で、グループで仲良くしている人はいたんですが、その人たちのことを心の中では「友だち」って考えていなかったと思います。同じように、いろんなことで笑いあったりしていたのに、いつもどこかうまくいっていないような、かたちが合わない居心地の悪さを感じていました。卒業したあとは、なんやかや理由をつけて、いちども集まりに出ませんでした。べつに嫌だったわけではまったくないんですが。

大学に入ってからありがたいことに、するするっと、「友だち」ができました。きっかけはたまたま同じクラスで話しかけてくれたとか、そんな些細なことだったと思います。いまのわたしをかたちづくるもののなかに、「友だち」からもらった考えとか文化がたくさんあって、それはひとりでは間違いなく出会えなかったものです。

そのことに気づいたとき、「あ、なんかめっちゃもったいなかったし、失礼やったな」と思いました。あのころの「友だち」でなかった人たちが、ほんとうはどんなことを考えていて、何に興味があって、誰をどんなふうに好きなのか、わたしは知らずともしていませんでした。その人たちはただ、自分とは遠いところにいる、その場でいっしょにいただけの何かでした。向こうにとってもそうだったかもしれませんが、毎日あんなに顔をあわせていたのに、どんな音楽が好きだったかすら覚えていません。

いまは、「友だち」には可能性がいっぱいあって、まず親しさの度合いはいろいろあっていいし、相手は年の差があっても、亡くなっている人でも、なんなら人でなくてもいいんじゃないかと考えています。だから、最終的にあなたにとって人付き合いがしんどいものだとしたら、好きな小説とか、電車とか、頭の中で作りあげた何かとか、そういうものと親しくなればいいと思います。

でも、あなたの考えていることを、いまあなたがちょっとめんどうだと思っている友だちが知らないように、その友だちもなにか考えてるかもしれないな、とも思います。わたしは自分の「友だち」から、どんな人にも、たくさんの引き出しがあることを教えてもらいました。大学に入ってもめんどうくさい友だちづきあいがあるのか、友だちが本当に必要なのか、はっきりとした答えはないんですが、すぐにいるとかいらないとかの結論を出さずに、いつもの人に思いきって、いつもとは違うへんな質問を試してみたり、いろいろと試してみるのはどうでしょうか。

職員／事務部門

64

友達は必須必要な存在ではなくとも、日常に色を添えてくれる存在ではあるとおもいます。美術も同様で日常に必須ではないですが、永遠にも感じられるいつもの日常に色を添えてくれる存在です。友達という存在もおなじではないでしょうか。関わりを持つことで、あなたが日常に色を添える存在になり色を添えてもらう存在となるそれは刺激的な色であったり薄暗い色かもしれませんがあなたの中に答えはあり、この文によりあなた様がその答えに近づけると私はとても嬉しく思います。

在学生／デザイン学部

65

友達はそんなに作らなくていいとおもいます。私は実際一緒に遊ぶ人もいません。外で知り合いと会ったり遊んだりということがほぼないです。たいてい1人で行動しています。困ったときに相談にのってもらえるような話せる人は1人くらいいた方がいいのかもしれませんが...(学校ならば、先生や相談室等で相談もある程度できると思うので、そんなに気にしなくてもいいと思います)。私もLINEなどで連絡をするのが正直疲れるタイプなので、会ったらちょっと挨拶したり話す程度の仲の人しかいません。友達とつるんでいると楽しいという人もいれば、1人の方が楽しいという人もいます。友達がいるから幸せだ、なんてことはないのです。自分が楽しい、幸せだと思う方を選べばいいと思います。回りの意見などに流されずに、自分にとって得かどうか等と考えてみると分かるかもしれません。

在学生／マンガ学部

66

僕としては友達は必要。いて損は無い。友達だからといって必ず自分の本音や隠し事を全て話す必要はない。誰にだって言いたく無いことの一つや二つある。僕にもある。それらを話せる存在が出来たら最高。

友達と思っているなら、空気を読まないといけないとかLINEをすぐに返さないといけない(内容にもよる)とか考える必要はないと思う。

中学や高校での友達よりも、大学で出来た新しい友達の方が同じような目的・志で大学に来てることもあり、本音で話すことのできる友達になる可能性は高いと思う。

在学生／デザイン学部

67

こんにちは。気持ちを打ち明けてくれてありがとうございました。人間関係ってめんどくさいですね。でも、相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりしないように、気を遣えるあなたはとても優しいひとなんだろうなと思いました。人の気持ちを慮ることができるのも、ひとつの素晴らしい能力だと思います。

さて、「友だちが必要か」、私の学生生活を振り返って考えてみました。

私も高校生のときはクラスメイトからはみ出さないように、同じものを可愛いと言って、乗り遅れないように同じ雑誌を読んで、そんなことに一生懸命だったなと思います。自分の本音や本当に好きなもののことは、あまり話せなかったし、分かってもらえないと思っていました。

大学に入って、同じ授業を受けていた子と仲良くなりました。その子は音楽が大好きで、ギターを弾くのが趣味で、いつも自分が一番好きなバンドのことを熱っぽく語っていました。私はそのバンドのことをそんなによく知らなくて、でも話を合わせたくて何曲か聴いて「あの曲いいよね」って話していました。嘘をついてるつもりでもなく、その子と仲良くできるのが嬉しかったし、その子が好きだと話している音楽を、だんだんと好きになっていく気がしてたんです。

でもある時、その子に「あなたが本当に好きな音楽はなに？」と質問されました。私が合わせていたことは、すっかり見抜かれていたようです。私が本当に好きな音楽、その友人と同じ熱量で語れるほどの好きな音楽、正直思いつきませんでした。そこで初めて私は、自分の好きな音楽がどんなものか分からない、ということを知ったのです。

私はそれまで、自分のことは全て分かっているような気がしていました。自分で自分のことがわからないなんてあり得ないと思っていました。でもそうではなかった。答えられなかったことがショックで、自分がないみたいで恥ずかしくて、それからたくさん音楽を聴きました。結局、本当に好きだと思える音楽に出会ったのは、それから2年後、大学3年生の時でした。

そんな感じで、私は友人と話しているなかで、自分の本音に気づく機会が大学生活中に何度もありました。

今でも、ひとりの時間だけでは気づかない自分の意見があることを日々日々実感しています。

(反対にひとりじゃないと気づかない自分もあります)

「友人はいないといけない」ものではないし、「友人がいないのはかっこ悪い」なんてことは決してないと思います。でも時には友人という存在が、自分の知らない自分を引き出してくれることもある。一般論では決めつけられないけれど、少なくともあの時の私には、友人は「必要」でした。

私はこの京都精華大学の出身で、そんな大学生活を送りました。今だって人間関係を難しく思うこともあるけれど、本音で話すことは、高校生のときほどこわくありません。あなたがこの大学で、あなたにとって「必要」な出会いに恵まれることがあれば、何より嬉しく思います。

職員／事務部門

68

私も高校生の時、同じことを感じていました。休み時間などに一人でいる(一人でいることを周囲に認識される)のが嫌で、大して楽しくもない会話でその場しのぎを続けていました。しかし、美術を本格的に学び始めてから、そういった悩みはなくなっていました。友人というのでもいいし、一人でいるのでもいいし、どちらでもかまわないという感覚です。それはおそらく、自分の外側ではなく内側に大切なものができたからだだと思います。まずは自分の追求したいことがある。その次に、周りが形成されていく。一度自分の内側を見つめてみてはいかがでしょうか。

教員／マンガ学部

69

1人でもキャッチボールは出来ます。でも、すぐに飽きてしまうかもしれません。「壁」が相手ではなく、「誰か」とのキャッチボールは予測が大変難しいぶん、集中力が必要になるかもしれませんし、投げる&受け取る技術も鍛えなければいけないかもしれません。

「誰か」という存在が、必ずしも「友達」である必要はないと思っています。なぜなら、「友達」の定義が非常に曖昧模糊としているからです。自分以外の「誰か」は自分を写す鏡のようなものです。「誰か」を通してでしか見えてこない「自分の姿」もあります。私はそこに、他者とのコミュニケーションの面白さを感じます。心を許せる「誰か」と出会うためには、自分自身の心の扉も開けておく必要があります。

広い世界に向けて扉を開いておけば、ずっと一緒にいたいと思える「誰か」に、いつか出会えるかも！と、想像するだけでもワクワクしませんか？その「誰か」と「友達」になれるかどうかは、その時に考えれば良いと思います。大切なことは、あなたをきちんと扱ってくれる人なら、あなたに意地悪なことをしたりしません。変に気を遣わなければ維持が出来ない関係性も不自然ですよ。孤独の扱いも大事ですが、他者とのコミュニケーションもとても大事です。今後、心地よい「誰か」と有意義な時間を共有できるといいですね。あなたにとって良い出会いがありますように。

教員／マンガ学部

70

自分が必要としなければ別に要らないとは思いますが。ただ、大学においていたら便利だと思います。同じ履修をとっていたとき、休んでしまったり遅刻してしまったりしたときにフォローしてくれる存在になりえることがあります。友だちとかそういうくくり方を取っ払っても良いのかもしれませんが。気のあう人と好きなときに好きなだけいれば良いと思います。私は本当の意味で友だちがいると思ったことがあまりありません。信頼できる人かできない人かの区別がつけばそれで良いと思います。ぼっちでいるのも気楽だし、誰かといるのも楽しい、そういう場所を見つけられる場所が精華大学のよさだとも思います。ありがたい自分でいれば、自然と自分の居たい場所や一緒に居たい人、目指すものができるのではないのでしょうか。

在学生／人文学部

71

私は必要だと思う。また大学でも人に気をつかいます。あなた自身は人に気をつかうことができる素晴らしい人ですね。ですがあなたはどうしたいの？と思いました。本音を言わない、本当は一人が気楽、でも一人にはなりたくない。矛盾していますよね、でもこの気持ちはよくわかります。あなたが幸せになりたい、変わりたいと思うなら、自分はどう生きていきたいのかを考えるべきだと私は思います。

自分が成功したい、何かしらの目標がある、夢があるというのなら友達なんていらないと思います。周りに合わせても意味ないですよ、あなたの人生なのだから自分で決めて、自分で考えないと後悔します。何でも楽な方へ逃げたくなりますが、それは根本的な解決にはならないし、人間的に成長しないです。もう一度考えてみて、友達って必要なのかな？とあなたの身近な人に聞くことが一番良いですよ。

在学生／マンガ学部

72

社会的に上手に生きていくには嘘でも嫌いでも、一緒にいる友達が必要です。その中で1人か2人心から信頼出来る友人が出来たらいいのでは無いでしょうか。友達がいなかったら今の時代は社会的にも価値が薄くなったり将来的にも道が見えづらくなると思われます。

在学生／ポピュラーカルチャー学部

73

本音で話せる友人は一生の中で一人か二人、見つけられたらいいんじゃないかな。焦らなくても大丈夫。友達と一緒にいることで悩むこともあるけれど、そのぶん、一人では感じられない楽しいことも沢山あると思うよ。人間関係に疲れてしまったら無理することはないけれど、友達という時間、一人の時間、両方大切にしていってほしいと思うよ。一度しかない高校生活楽しんで！

在学生／デザイン学部

74

友達は、いるといいんじゃないかなと思う。ところで、あなたの言う友達ってどういう存在のことだろうか？クラスや部活が一緒？趣味とか好きなものが同じ？

子どもの頃って、何かが「同じ」や「一緒」な人がいつの間にか友達ってことになっている場合が多い。それは子どもにとって自然なことで、同時に、子どもは「ちがう」ことに過敏で簡単に排除したりもする。だから無理して合わせたり、空気を讀んだりする。これは結構、いやだしぶしんどい。

でも「友達」って本当はもっと幅が広いんです。とりあえず、大学生の時期には、上手くすれば「ちがう」ことを愉しめるようになってくる。そうすると「自分とちがうからこそ友達」なんて存在が出てくる。

それはあなたにとってどんな存在になるだろう？ライバル？尊敬できる相手？斬新な視点をくれる人？理解者？いずれにせよ、どんな存在を「友達」と呼ぶのかは、あなたが決めていい。一度しか会ったことない親友もいれば、毎日会ったの知人もいる。あなたは、どんな存在を「友達」と呼びたいんだろうか。

そしてもう一つ大事なことは、そういう「友達」に対してあなた自身はどんな存在でありたいか？ということ。私はよく「友達に恥ずかしくない自分でありたい」と思う。何年也会わなくても、もう会えなくても、その気持ちは自分に力をくれる。そういえば私にとって「友達」と「尊敬respect」は常にセットなのだけど、誰かへの尊敬は、自分にとってエネルギーになる。つまり私の場合だと「自分に力をくれる関係」が「友達」なんだけど、そんなふうに、いるといいんじゃないかなって関係こそが「友達」なんじゃないだろうか。

もし自分からエネルギーを奪う関係なら無くてもいい。ただし、その関係がそもそも「友達」なのかどうかは、あなたが考えて決めることだ。考えて主体的に選ぶ孤独は「ぼっち」なんかではない。そうして、もし人生に好きな人や尊敬できる人が現れたなら、その人とどんな関係を築きたいか、その人があなたにとってどんな存在で、あなたはその人にとってどんな存在でいたいのか、きちんと考えるといいと思う。そうやって考えて築いた関係が「友達」という名になることはある。けっこう生きる助けになる。

75

高校で吹奏楽部に入りました。中学生の時すごく仲の良い友達が一人いるだけでとても楽しい中学校生活を過ごせた私は、「親友」と呼べるような子が2、3人いればそれ以外の人とはそんなに関わらなくても良いか」と思っていました。だからずっと同じパートの子たちと過ごしていました。

2年生の夏に私たちのパートの心がバラバラになりこれまでの関係が修復不可能な状況になりました。私は特に仲の良くない子とコミュニケーションを取るのがすごく苦手で部活内で仲が良い子はパート内の子しかいなかったのも、私にとって「親友」と呼べる存在はいなくなりました。中学の時すごく仲が良かった子も高校で「親友」をつくり、私はその子にとって「ただの友達」になりました。その時から今も「親友」と呼べる存在はいません。

友達はいても「親友」がいない。その事実ですごく孤独を感じました。「「親友」と呼べる存在がいるのは当たり前のことじゃない」「中学生の自分がただすごく恵まれてただけだ」と考えるようにして、またそんな存在に出会える日がいつか来るんじゃないか、もしかしたら大学でそんな人と出会えるんじゃないか、と諦め半分期待半分で過ごしていますが、今でも寂しいままです。

私は「ひとり」を怖がる人間です。欲張りだから友達じゃなくて「親友」が欲しいです。大学でできた友達二人と話している時、私以外の二人がとても仲良さそうにするのを見てみると「私はここには必要ないんだなあ」とものすごく面倒くさい考えを持ちます。しかし家で一人でゆっくり過ごしている時は、その友達たちのことはどうでもいいと感じます。また、友達が欲しいくせに自分から積極的に会話をしようとしません。会話のキャッチボールを常に相手に求める自分勝手に本当に面倒くさい人間です。私はきっと他人に興味がないんです。でも「親友」を欲しがります。本当に自分がわかりません。

話が逸れてしまったので質問の内容に戻ります。

「友達は必要なのか？」という質問について私は、無理に友達をつくらうとする必要はないと思います。この答えになったのは今の私が人に興味がないからかもしれません。

私には今大学内に、主に行動を共にする友達は二人います。そのうちの一人には自分の嫌な部分や人間関係の悩みを正直に打ち明けさせてもらいました。その子からも進路の悩みなどを聞かせてもらいました。だからといってその子ととても仲良くなったわけではありません。それは私が「誰かと「親友」になるまでの過程」を面倒くさがり、怖がっているからだと思います。共に過ごす時間を重ねていくことや、その時間を大事にすることで深い関係が生まれるのだろうと、今までの経験を振り返って私はそう思います。しかし私はその時間を重ねることを面倒くさがっています。友達がいないと思う人ならそれでもいいと思います。でも私を含めて友達が欲しいと思う人ならその過程を面倒くさがってはいけないのかなと思います。

また話が逸れたので戻します。例えば制作をするにあたって友達の存在はすごく助けになるんだろうと思います。手伝ってくれる人や苦しい時に支えてくれる人がいるといないとではしんどさは全然違います。しかし制作がどれだけしんどくて諦めそうでも自分自身が最後までやりきることができれば一人でも作品は作れます。

この例えを日常生活に置き換えると、友達や「親友」と呼べる人がいなくても日々を過ごすことはできるから無理して友達をつくる必要はないと思うのですが、私自身が友達や親友という存在に執着しているから、そう簡単に答えを出すことはできません。

大学生になっても、自分が友達に気をつかうのなら、そして気をつかわないと関係を築けないような人と関わるのなら気をつかい続けます。大学生になったからといって「友達に気をつかわず自由に振る舞うことができる自分」に自動的に変わるわけではないです。もちろんどんな人と関わるにも「気をつかう」ということは不可欠だと思います。気をつかわず自分の思うがままに振る舞うだけでは人は離れていくと思います。しかし本当に気をつかうのに疲れてしまっているなら一度人と距離を取ることが必要だと思います。自分の心も大切です。気をつかえる時に誰かに気をつかえばいいと私は思います。

最近になってやっとわかったことですが私は誰かといることが実はあまり好きではないようです。中学生の時は友達と過ごす時間がすごく楽しかったから「自分にとっては友達といること一番幸せを感じられる人間なんだ」と決めつけて友達と楽しく過ごせない自分を否定していました。しかし実際の私は「友達とも楽しい時間を過ごせるが主に一人が好き人間」でした。この質問をした人が実際にいたとすれば、その人は自分は一人でいる方が楽だとわかっている人です。わかっているなら自分の気持ちに正直でいるのがいいと思います。いつも一緒にいる子ではない人に本音を話したりすることもあります。これを書いていて、特定の人物に執着する必要はないのかなと思ったりしました。人間は考える力があるからどうしても考えてしまうけど、もっとおバカになれればいいのになと思います。

在学生／芸術学部

76

友達が必要かどうかで悩んだら一度友達付き合いをやめてみればいい。一度やめてみてからそれが楽ならば貫き通せばいいし、不自由に感じるならばまた人間関係を作ればいい。これまでにできた友達なんてこれからできる友達に比べれば些細な数だから同調することに不安感を覚えるならいつそこれから出会う親友のために自分の楽な環境を作ればいい。

在学生／マンガ学部

77

“本当に”、かどうかは自信ありませんが、友だちがいた方が得かもしれません。

- ・誰かと話をしたいときに、気軽に頼める。
- ・困った時に、SOSを発信できる。
- ・勉強のことを教えてもらえる。
- ・一番、得なことは、客観的に、自分の長所と短所をアドバイスしてもらえること！

以上の得なことは、逆にお友だちにもしてあげることは、当然のマナーですね。

職員／事務部門

78

友だちとは、必要な時に「友だち」だと気付くものだと思います。だから、必要だと思わないなら今は必要じゃないと思います。私もぼっちは面倒ですが、友だちを作ろうとは思いません。作ってできた友だちなんて薄っぺらい関係だと思うか

からです。無理に自分を相手に合わせて、苦しい、面倒な思いを抱えたままできた関係は自分にとって本当の友だちとは言えないと思います。

義務教育と高校時代、私は友だち関係に悩みました。ぼっちになるのが嫌で無理に友だちを作ってきましたが、毎日学校に行くのが嫌になるくらい面倒で偽った自分が嫌でした。大学では、友だちは作らないと決めてからか、気を遣わない仲間を見つけられたり、独りを楽しめたりしています。

もっとも大学に来て一番の気づきは、「一番の友だちは自分である」ということです。何をしようが誰としようが、そこに絶対自分はいます。自分をどれだけ楽しませるかで大学生活は変わってくると思います。大学は今までの学生生活より何倍も自分に選択肢があって、時間があります。自分のための選択をするには自分を良く知らなければならぬし、選択しについても良く知識を深めなければいけません。自分以外の人に合わせていたら、自分のための時間が少なくなります。もしその時間が楽しいなら別です。もっと楽しんだら良いと思います。楽しくないなら自分のために時間と労力を使った方が良いでしょう。この人なら時間を分け合ってもいい、と思える人を見つけるまで自己投資に時間を費やしたら良いと思います。"

在学生／人文学部

79

大学では自身と似た目標を持って来る人が多いです。なので、自分の考えを理解し聴いてくれる友だちができると思います。ラインをすぐに返さないだけで失う縁ならば要らないでしょう。ただし相手が悩んでいたりはあなたは答えてあげてください。今度はきっとあなたの悩みも友だちが聴いてくれますから。

在学生／マンガ学部

80

自分が人間として生きるためには必要不可欠だと思います。物(スマホやおもちゃなど)によって楽しさが生まれたりしますが、""人間""からは物からとはまた違う、1つ1つ異なった""楽しさ""がいくつも生まれます。その人間から生まれる楽しさが生きる活力になるとも考えます。

しかし、その""楽しさ""が生まれるのはお互いに礼儀と好意を持った時なので「友達をつくる」と考えるのではなく、「楽しませる」という気持ちを持って人に関わっていけば「友達が必要？」と考える以前に大切な人が周りに自然とできるはずです。

在学生／デザイン学部

81

自分らしさを出していれば気の合う友達、親友が周りに出来ました。

在学生／デザイン学部

82

大学生になっても人間関係には悩み続けます。多分、一生悩み続けます。ただ大学は一人でいても他人は何も思っていない。自分で思っている以上に他人は興味ありません。それでも友人はいた方が楽しいです。ここでの友人はなんでも話せる友人ではなく大学4年間の友人です。あなたの言う親友は人生を賭けて見つければいいのです。そう急いで見つけるものでも見つかるものでもありません。ここまで言うておいてなんですが、あなたが不必要だと思うものは捨てれば良いのです。いらぬものをたくさん持っていてはここぞというときに手に入れることはできません。どうか自分を信じてあげてください。

在学生／マンガ学部

83

友達は本当に必要か？今回、高校生から「友達は本当に必要なのか？」という質問を受けた。なので私なりの考えを出してみた。

今回の質問文に「一人のほうが気が楽」とある。こう思うのであれば私はこの与質問者は自分に負荷を与えてまで『友達』という存在を作る必要はないのではないかと返答するだろう。

が、逆に「ボッチになるのは、もっとめんどくさい」と与質問者が思うのであれば、『友達』ではなく、『知り合い』、『友達ではないがたまに話す』ぐらいの存在をつくれればいいのではないかと、私は思う。

周りに合わせて意見を変えることや行動を変えるのは、私もよくするし、それは必要なこともあるが私は、この与質問者に一つ言いたいことがある。

それは、引かれることが怖くて本音が言えないことや、それが原因で意見や行動を変えていること、またその言動が周りに左右され自らの言動ではないことである。

確かに一人でいる事が楽なのは私も同じだが、本音で話したり自分が思った通りの行動をすることによって、一人でいるほうが楽な生活から一緒にいると楽しい『友達』ができるかもしれない、行動をしてもいないのに「一人の方が楽」なんて言ってほしくはない。

また『一人のほうが気が楽』のなら悩み事などの相談は誰に吐き出すつもりなのだろうか？大学ではあなたが思っているよりも遥かに多くのことに悩まされてしまう場である。

これを踏まえ、結論を述べるとこの与質問者が行動したうで『必要なし』と判断したのであれば必要ないと思うが、逆に「必要あり」判断したのであれば努力するべきであると私は思う。

そして、「大学に入っても変わらず気をつかうものですか？」という質問に対しては、確かに気をつかうがそんなに深く考える必要はないかと思うし、現に私は友達付き合いに対してあまり深く考えないように生活している。

在学生／人文学部

84

自分が必要だと思えば必要、必要なければ必要ない、と思います。でも学校生活を順調に進めることと人間関係は、切っても切れない存在だと思います。もし「友達は必要ないだろう」と思っているのなら、友達と言うレベルまでは行かずとも、ある程度の人間関係を築いておくと損は無いです。

在学生／人文学部

85

まともな回答は出来ないのですが、友達というのは本当に必要であれば自然に出来ますし、無理に作るものではないと思います。逆に無理に作ろうとしたところで、ロクな友達も出来ませんし自分が苦しいだけです。私も貴方と昔まで同じ考えでした。しかし本当の友達というのはもう一度繰り返しますが、自然に出来るものだと考えています。とりあえずありのままの自分を曝け出してその中好きになってくれた人を大切にすればいいと思います。嫌われたら縁がないということでそんなものですし。私自身も大学内では一部の人たちに結構嫌われていますよ(笑)しかしそんなものだと思って気にしていません。しかし一方で自分にくっついてくれる人がいるので私はその人たちに大変感謝しています。もしその場で友達が出来なかったとしても、自分の軸を持って、自分を大切にすればいいですし、出来ればそれで感謝でおkかもしれません。

しかし友達がいなくても大丈夫だという信念は持っておいた方がいいのかもしれませんが。その人の方がむしろ良い友達に恵まれるのかもしれませんがね。私自身も交友云々で酷い目に遭った身で、人を見て選ぶという事を決意した身なので。とりあえず自分の軸を持って、それで自分のことを慕ってくれる人がいればその人達を大切にすればいいと思います。大層なことは言えませんが私が言えることはそれだけです。みんなに好かれるのははっきり言って無理ですし、逆にみんなに嫌われるのも無理だと思います。とりあえず気楽に生きましょう。どうか貴方にとって素晴らしい人生でありますように。

在学生／人文学部

86

なかなか興味深い質問ですね。まず、僕が友達と呼ぶのは本音で話が出来人、お互いが尊敬出来る人なので、世間で多くの人が友達と言っているのは単なる「顔見知り」だと思っています。その基準だと僕の友達はせいぜい1~2人ということになります。顔見知りは作るのは比較的簡単ですが、友達はなかなか出来ません。意識して作るものでも無いと思います。知らない間に自然に出来るものでしょうね。また、数が多い人ほど充実しているわけでもないの、自分の好きなことを探し、自分らしく毎日を送ることを意識する方が良いと思いますよ。忘れた頃に素敵な友達が出来ているかもしれません。

職員／事務部門

87

小学校であろうが中学校であろうが高校であろうが大学であろうが、友達はいなくても生きていけます。絶対必要かという問いなら必要ないです。しかし、周りは当然のように友達と仲良く話している人のほうが多いわけですから、自分がひとりぼっちであることに嫌悪感や不安感を持つことがあると思います。ぼっちでいることというのは、そのネガティブな気持ちを負う覚悟が必要なんだと思います。高校よりは同じメンバーで授業を受けることも少なくなる大学ですが、学校関連の情報の共有は高校以前よりずっと必要になってくるし、友達は作っておいたほうが楽です。

友達づきあいに気を遣うのかということに関しては、気を遣います。それは環境というよりも、自分自身の性格に起因することでしょうから、気を遣わずに生きてきた人は気を遣わないだろうし、気を遣ってきた人はこれからも気を遣っていく

ことになると思います。でも、先述した通り一日中同じメンバーと授業を受け続けることはなくなるのと、自分で生活をある程度自由にすることができるので、気を遣う頻度は少なくすることができます。

大学が高校以前より友達関係で疲れることが少なくなるのか？という意図の質問なら、選んだライフスタイルと、人によるということになります。

在学生／マンガ学部

88

欲するために作るものではありません。相手が友達になる価値のない人間なら、無理矢理作らなくてもいいですが、敵にはできるだけならない方がいいと思います。

在学生／マンガ学部

89

「友達って本当に必要ですか？」の質問の回答です。

・友達という存在はそこまで必要ではなく求めるものではありません。確かに友人がいる事で人生が豊かになる事はあります。友達がいないと「ぼっち」だとか「会話能力が無い」とか周囲の偏見に気になり続けます。友人と一緒にいる時は楽しいですね。しかし、友人が増えると「他者との時間」を重要視する一方で、「自身の事を考える時間」が減ります。自身の事を考える時間が減ると次第に周囲の行動や意見に流されやすい人間になり面白くない人生になります。一方で「自身の時間」が多い人は思考力があります。理由には「人は物事を考える時間が多いのは一人でいる時である」本を読む事であったり物思いにふけるような事です。他者という事が多い人は無理矢理自身の時間を作ってみるの也有りですね。思考力が高い人は決断力や行動力もあります。周囲に流されず自身の意見を持ち行動できます。でも、友人との過ごす時間を否定している訳ではありません。筆者自身も友人とご飯に行ったりする時はとても楽しいです。また気を使わず話せる友人なので大切にしています。

・大学では多くの人が(勉強、芸術、サークル、バイト...)様々な事に日々打ち込んでいます。皆さん自身の事で精一杯なのであまり他者の事には気を使っていないと思いますよ。大学は今までの所とは違うと考えた方がいいかもしれません。自身のやりたい事に時間を使いのが最善です。

本当に人それぞれです。

・結局のところ、「他者との時間」と「自身の時間」の葛藤になる訳です。このコントロールが上手くなると時間の使い方も上手くなると思います。筆者は「自身の時間」が8に対して「他者との時間」は2ぐらいです。あくまで前者は筆者の意見です。人それぞれで違う思います。

でも少しでも参考になれば幸いです。

在学生／人文学部

90

私は大学でも安心でき悩みを打ち明けたり考えを共有し合える友人に出会えたので、私にとって大切にしたい友人は数人います。ただ、友達がいないといけないとも思わないし、必死に見つける必要もないと思います。安心できる人が今後

見つかったら仲良くなればいいし、自分がしんどい時にこの人なら頼れると思う人がいれば自分も少しは安心して暮らせるかもしれませんね。

在学生／人文学部

91

入学時に学部一回生のライングループに誘われましたが人付き合いが面倒なので断りました。断った人達は友達と言えるほどの付き合いはしませんでした、その後も普通に接してくれました。大学生になるとみんなもう大人なので、教室にぼっちが居ようが気にする人はそんなにいないと感じます。大学は、たまに会って話すくらいの友達がいるだけでも十分学校生活はできます。ぼっちも案外気が楽ですよ。自分は大学四回生になってから大学外で友達ができ今は周囲の友達に感謝しています。例えば、LINEのやり取りもしていますが、自分はLINEが苦手なので返信が遅れたり、早めに会話を切り上げたりしても「ああ、そういう人なんだな」って理解してくれます。というかみんな案外面倒臭がってます。同級生の人にもLINE苦手なんだよね、とか、面倒臭いんだよねーと言ったら理解してくれるかもしれませんよ。いつか良いお友達に会えるといいですね、きっといつか出会えますよ！

在学生

92

「友達」はいたほうがいいと思います。ただ、一緒にいて「ひとりの方が本当は気楽」と自分が思ってしまう人達は「友達」ではなく「知り合い」です。そもそもLINEの返信が遅い程度で関係が悪くなるような人達は「友達」ではありません。残念ながら学校は狭い世界なので「知り合い」とも上手く付き合わなくてはなりません。小学校から中学校、高校と自身の世界が広がったように、これからいろんな人と出会う機会がどんどん広がります。今は「友達」がいなくても、これから心を許し合える「友達」と出会えるかも。世界はひろい。

職員／事務部門

93

京都精華大学は、今から50年前の1968年に始まった大学なんだけど、50年前の『入学案内』にはこう書いてあった。

「大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所である」

だから、京都精華大学に入学するあなたには、ぜひ「深い友情」を発見して欲しいなと思います。一方、あなたの質問の中のことばを整理すると次の通りになります。

・「親友」とは本音で話せる人

・「友だち」とは一緒にいると楽しいけど、空気を読んだりLINEに即返信しないといけなかったり、引かれることがこわいので意見や行動をあわせたりするなど、気をつかうことも多い存在

・本当は、自分ひとりのほうが気楽だけど、「ぼっち」になるのは「友だち」といるよりもっとめんどくさい

一番大切なのは、あなたがどうしたいかということじゃないかな。例えば、次のようになりたいと思うかどうか。

・本音で話せる「親友」がいる

・空気を読んだりLINEに返信しなくても引かないで、自分の言いたいことを聞いてくれて、自分のしたい行動(たとえば、ひとりになりたい時はひとりで過ごすこと)を尊重してくれる「友だち」がいる

もしそうなりたいと思っているのだったら、答えは次のとおりになります。「あなた自身に変化することによって、まわりの人たちとの人間関係が変わります。だからまず、あなた自身が変わるように行動していこう。」具体的には、京都精華大学に入学して、次のとおりに行動してください。

・あなた自身に変化していくために、まずたくさんの本を読むことをお勧めします。読書を通していろいろな人たちの考えや意見を知る。そして、そのことについてじっくり考えて、考えたことを自分なりに表現(ことばや作品に)してみる。自分の表現したこと(ことばや作品)について、他の人からの意見を聞き、自分の考え(本音)を話してみる。そのことを繰り返してください。そうやって、本を読んだり、いろんな人たちの考えや意見を知ったり、自分の考え(本音)を話したりしているうちに、不思議なのですが、だんだんあなたが変わります。

・次に、空気を読んだり、LINEに即答したり、引かれるのをこわがって自分の意見や行動をあわせるようなことはやめてください。そもそも自分のやりたくないこと(無理やり人に自分をあわせること)は、むりにやる必要はありません。やりたくないというあなたの気持ちを尊重して、大切にしてください。その結果、もし「ぼっち」状態になってしまっ、「さびしい」と感じたら、本を読んでください。マンガを読んでも映画を観るでもいいですが、とにかく「物語の世界」に浸ってください。もちろん芸術やデザイン、音楽やファッションの世界でも構いません。なぜなら、自分ひとりでしか「なにかの世界」には入っていけないからです。だから「ぼっち」の状況は、「なにかの世界」に入り込む絶好のチャンスなのです。そうやって、たくさんの「なにかの世界」に深く浸ったあなたは、おどろくほど魅力的な考え方を持つことができます。

・さて、こうなってきたら、まわりの人たちとの人間関係はどうなっていくでしょうか。○○の世界感のセンスがさりげなく光り、しっかりとした自分の考えを持ち、他人と本音で話しあえる人。きっと素敵な人だから、きっと素敵な友人関係を持つことができるでしょうね。

実はこのことは、京都精華大学の50年前の『入学案内』に書いてあった、「大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所である」ということを、わかりやすく説明しただけなんです。学問することによって、自分自身に変化していく。自分が変わると、新しい人間関係が生まれていくということを別の言い方でお話しただけなのです。

さらに、もう少しだけ付け加えれば、「文化と芸術」を学ぶことによって、ものすごい仲間に出会うこともできるそうです。アメリカの画家ロバート・ヘンライは、彼の著書『アート・スピリット』の中で次のように語っています。

「芸術を介して、人びとのあいだに神秘的な理解と叡智の絆が生じる。それは兄弟の絆と同じように堅い。兄弟の絆を結んだ者たちはおたがいを深く理解しあい、時間や空間さえも彼らを隔てない。この絆は強力だ。仲間は大勢いる。場所や時代も多岐にわたる。この絆で結ばれた者はけっして死なない。この仲間になる条件は、当人の資質がそれにふさわしいかどうかで決まる。その資質があればこそ、兄弟の絆はけっして切れることがない。」

文化と芸術を学ぶことによって、時間や空間さえも越えた仲間と絆をむすぶことができるそう。しかも死なないらしい。それって、ピカソやダビンチ、夏目漱石やジョン・レノン、岡本太郎やゴッホ、赤塚不二夫や石の森章太郎とも「親友」以上になれるってことだ。文化と芸術って、すごいでしょう。

あなたも、芸術と文化の力を使って、京都精華大学の仲間と一緒に、時空を超える仲間を探しに行こう。

* 引用:ロバート・ヘンライ著、解説 滝本誠、翻訳 野中邦子 『アート・スピリット』(国書刊行会)

職員／事務部門

私は気を遣ってまで人というのが苦痛なので「友だち」の数は少ないと思いますが、それなりに充実はしています。だから友だちは必要ないと思う。けれどそれは大学に慣れた四回生の身だから言えることかもしれません。大学に入ってしばらくは1人で授業を受け、お昼も1人で食べながら、認め合える存在のいない自分を俯瞰して寂しい気持ちでいっぱいでした。私は「ぼっち」になることよりも、誰からも認められない状況が怖かったんだと思います。

まあ、そんな恐怖も今となっては多感な時期の産物として過去になっているわけですが、相変わらず1人で行動することは多いです。だけどもんどうくさいとは思いません。むしろ他人に縛られず行動できるので、好きなことが出来て良い。

私はさっき、「誰からも認めてもらえない状況に怯えていた」と書きましたが、自分を認めてくれるのは何もつむ友人だけに限りません。真剣に授業課題に取り組めば担当教授は一目置いてくれたし、アルバイトに打ち込めばバイト先で認められた。他にも趣味に没頭して上達を感じたり、知識が増えたり、そういう積み重ねを、(最初は辛いですが)続けるうちに、誰かと無理して一緒にいたいとは思わなくなりました。大学はやりたいことが見つからばいくらでも没頭させてくれる環境だと思うし、質問者さんにも色々なことにチャレンジして、他人と同調せざるをえない自分の状況を変えて欲しい。そのほうが楽しいし、自分を好きになれます。一度友だち以外のことにがむしゃらになってみることをお勧めします。

質問者さんも気づいているんじゃないんでしょうか。だるい思いながらも、寂しさを埋めるために今の「友だち」を利用している自分に。もしかしたら質問者さんのお友達も、1人になるのが怖くて質問者さんと付き合っているのかもしれないね。(不快になったらすみません。だけど私含め、そういう動機で行動してしまうのはよくあることです。)でも心にわだかまりを持ちながら日々をやり過ごすのは、虚しくありませんか？せっかく高校を卒業して環境が変わるのです。一度同調しがちな自分を見つめ直して、戦ってみてはどうでしょう。同調しなくてもやっていける自分を目指してみよう、と。そうやって自分を変える努力をした後でもう一度、「友だちって本当に必要なんですか？」と胸に問いかけてみてください。今とは違う答えが見えることを願います。

在学生／人文学部

大学に入るといろいろな人に出会う機会があります。あまり、深く考えすぎず、一緒にいて楽しい人、一緒にいて楽な人を探すのがいいのかなと思います。大学時代は、いやな人と付き合わない自由もあったりします。でも、「友だち」も「友だち」を求めているかもですよ。何かを求めるなら、何かを与える関係が「友だち」かなと思います。

友だちが助けを求めているときには、面倒なので反応せず、助けてほしいときには友だちだから当然たすけてくれるよね、だとなんだか上手いかない感じがします。

自分のしんどいときにも、助けてあげたいと思う人と出会えるのが一番ですが、しんどいときに助けを求めてみたり、相手が助けを求めて来たときにできることで何か動いてみたら、新しい関係が生まれるかもしれません。そのときに、いやな反応なら距離をとればいいです。

そんなことを繰り返しているうちに、いつか何でも話せる友だちができてくるかもしれません。そんな感じで気楽に考えて、毎日の出会いや、人との関係を楽しんでほしいなと思います。

職員／事務部門

96

あなたが必要だと思っているからこそこの質問だと思います。いないよりはいるほうがいいと思います。行動あるのみです。

在学生／芸術学部

97

私には必要でした。今は家族と離れて暮らしているので苦しいときに話せる人が必要でした。そのために友達を作ったというわけではありませんが、最初は趣味の話ができるから一緒にいましたが、今では波長が合うということもわかってきました。無理矢理友達を作る必要はないと私は思います。1人でできる楽しいことはたくさんありますし、私は1人映画によく行きます笑笑。その話をきっかけに仲良くなったりもしますよ。友達に対して私はこうなんだよという予防線を張るのも大事だと思います。LINEの返事は遅いよとか。友達だからと割り切ることも大事だと思います。

在学生／マンガ学部

98

回答の前に、日本語がそこまでうまくないので誤字とかがあるかも知らない点、話の内容がバラバラになってしまう点などは勘弁してくれたらありがとございます。長い文章ですが気軽に読んでくれたら幸いです。結局ただ一つの意見に過ぎないので...

人間関係はまあ、面倒くさいと言ったらそうだし、必要ではないと言ったらそうかも知らないと思っています。得とか損をはっきり計算したりする人として、率直に言うと友達と一緒にいる時に疲れるようになってたり、空気を読むのが嫌だと思っていたらワザワザ我慢しながら友達を作る必要はないと思います。

でも、だから一人でずっというのはダメだとも思っています。

人たちの視線を気にしたり、自分がしたくないことを仕方なく一緒にすることなど...ストレスになることも沢山ありますが、一緒にいたときの楽しい気持ちなどでそれが相殺できたらむしろ友達を作ることがもっといいんです。

一人で暮らしていると精神的に暗くなってしまう、後にくる挫折に心が折れやすくなってしまうからです。

私はそんなに友達がいっぱいではないんですけど、辛かったり、心が闇に食われたときに一緒にいてくれる友達のおかげで今もこのように私と似たような悩みを持っている人にアドバイスもできるような人になっていると思います。

残酷な話かも知らないんですけど、人生の中で一番長く一緒にいてくれるのは両親とか、先生とかではない友達なので、友達を作るのは大事なです。

なので一緒にいたときに辛かったり、ストレスを受けたりする人とは仲良くしようとしなくても大丈夫です。皆と仲良くなる必要はないし、友達は量的な価値は大事ではないからです。そして、どれだけ気が合う友達でも、その人のせいでストレスを受けなかったりすることはできないことも心に刻んでおくべきです。

そして、友達を作ることに負担を持たないでほしいです。前まで言ってきたいい友達を作るために、より親切な、いい印象を持っている人になればなるほどいいと思います。ここで言うことは最低限の話だから、向き合ってみて嫌な人にまで親切である必要もないんです。むしろ嫌いな人がいやそうなことをしないことだけは守っておけばいいと思います。

話がバラバラになってしまったんですね。最後に友達を作らないとは思はないでください。友達は誰よりも隣で力になれる大事な人だから、人生の中で一番必要な、あっても損しない損じだからです。

これからのいい友達を作ることを応援します。

在学生／マンガ学部

99

私は17歳の頃ある出来事を境に人間関係を築くことを断ち、ぼっちになりました。それから、昼食のときもみんなが誰かと仲良く食べているなかで1人で食べることは嫌で、寒い部室で1人、誰かが来ることを恐れながら昼食をとっていました。本当に辛い日々でした。

大学生になった今、私は京都で一人暮らしをしています。友人は変わらず1人もいません。履修科目や大学の仕組みなど慣れてなくて分からないことなどは、友人がいたほうが確実に有利だと思います。私の実感としては、高校より大学のほうが教室という縛りがなくてぼっちだとしても浮くことはありません(大学によります)。また、一人暮らしとなると本当に喋ることは無くなります。snsがあれば世界と繋がっていると錯覚できるのですが、ふと自分に空虚感を感じて本当に死にたくくなります。

ぼっちの目から友達のいる他人を見ると、ぼっちである自分を否定したくなくて、友達がいる他人を心のどこかでくだらないと思ってしまいます。そうしてどんどん性格が悪くなって、人間不信になります。ぼっちは人と合わせて行動することではなく、その悩みにおいてはありません。しかし、ぼっちになったからといって人生が自由になって楽しくなるということは絶対にありません。むしろ視野が狭くなってくだらない自分の世界に浸り続けて井の中の蛙になります。そして自分が蛙であると気づいた今、無力な自分が世界で一番嫌いです。

一方、少なからずうわべだけの友人がいるというのは、ぼっちの人間と比べると人生は180度違うと思います。たとえ少なくとも、うわべだけの関係でも、人脈は大事です。社会人に近づくにつれて、人脈や人と関わることは大切だとひしひしと感じています。

人間関係は本当に辛く、一生苦しむものだと思いますが、親友がいなくても、友人を気遣うことが面倒くさくても、それでも一緒に行動できる友人がいるということを誇りに思ってください。

在学生／マンガ学部

100

友達は必要。もちろん自分を曲げて付き合うような友達ではなく、いつか本音を話せそうな信頼できる相手を見つける。無理して作るものではないけど、社会性を育むために友は大切。一人で考えて狭い視野の中にいるより、一人でも二人でも、違う視点を持った友と一緒に。自分を開いて相手に見せ、それを後悔しない自分を知る。たとえその友が自分から離れても、互いに忘れないような人間関係を知ってほしい。

教員／マンガ学部

101

これは私の考えでしかないのですが、他の考えがあってもいいと思うので、そのつもりで書きます。まず、私は、「友だち」のかたちは、ひとつではないって思っています。たとえば、あなたが「いま、自分はひとりでいたい、そっとしておいてほしい」ときに、「それもありだな」と思って、そのあなたの思いを尊重してくれる友だちであれば、別に「いてもいい」のではありませんか。

あるいは、あなたが「誰かにそばにいてほしい」と思うときには、さりげなく、そばにいてくれるような、そんな友だちも、別に「いてもいい」のではないかと思うのですが。

その一方で、空気を読んだり、LINEをすぐに返さなければいけないとか、そういうややこしい気遣いばかりで疲れるような相手は、ほんとうにあなたにとって大事な友だちなののでしょうか？

あるいは、自分自身がホンネでぶちあたっていけないような相手も、ほんとうに大事な友だちなののでしょうか？

こういうかたちで考えていくと、「友だちって本当に必要？」という質問の仕方よりも、もしかしたら「私が私らしく生きていく上で、大切にしたいと思えるような友だちって、どういう人なんだろう？」という風に質問をしたほうが、何か、解決策、解答が見えてくるかもしれませんね。

また、その解決策、解答も「私が私らしく生きていく」ことを軸にして考えればいいので、たとえば高校生のときの私、大学生のときの私、就職してからの私、年老いてからの私・・・というかたちで、その時々「私」の姿にあわせて、いくつもの道筋があってもいいのではないかと思います。

ということで、いま、高校生のあなたは、あなたがあなたらしく生きていく上で、どういう人を大事な友だちだと思って、大切にしたいと思えますか？

一度、こんなかたちで考えてみてくださいね。

教員／人文学部

102

恐らくそれは、私達が答えるべき質問ではありません。一人の方が気楽でも、煩わしい友達といった方が特だから、一緒にいる事を選んでいるのですね。自分で答えが出ているならば、私達が答える必要はないでしょう。

教員／マンガ学部

103

私はプライベートで作り笑いをするのが嫌なので、一緒にいて楽しい人と一緒にいるようにしています。面倒になったら一人になります。楽です。離れていても信頼している友だちは何人かいます。世界に人はたくさんいるので、きっとどうにかなります。

教員／デザイン学部